

平成 26 年度 東京都内湾水生生物調査 2 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 27 年 2 月 6 日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温 11.2～11.4℃、風は弱く海は静穏であった。調査当日は中潮で、干潮が 0 時 13 分、12 時 23 分、満潮は 6 時 28 分、18 時 04 分であった(東京都港湾局のデータ)。

魚類の種類数は 12 月と同様に少なかったものの、葛西人工渚では、アユの仔稚魚が多く確認され、春の到来を感じさせる結果が得られた。

| 2015/2/6 | 城南大橋 | お台場海浜公園 | 葛西人工渚 |
|----------|---------------------|---|-------------------------------------|
| 作業時刻 | 11:30-12:35 | 10:10-11:04 | 13:30-14:40 |
| 水温(℃) | 12.4 | 10.6 | 10.7 |
| 塩分 | 24.6 | 28.8 | 22.7 |
| 透視度(cm) | 82 | >100 | 96 |
| DO(mg/L) | 8.4 | 8.2 | 11.0 |
| DO飽和度(%) | 91.5 | 88.3 | 114.8 |
| 波浪(m) | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| pH | 7.6 | 7.8 | 8.0 |
| 水の臭気 | 弱下水臭 | 無臭 | 無臭 |
| 備考 | 調査場所周辺では、下水臭が漂っていた。 | 懸濁物は少なく、水の透明度は高かった。 渚では、十数名の観光客がみられた。 波打ち際付近で、全長 34cm のタチウオを発見した。 | 波打ち際付近では、リター(植物の枯死体などの小片)は確認されなかった。 |

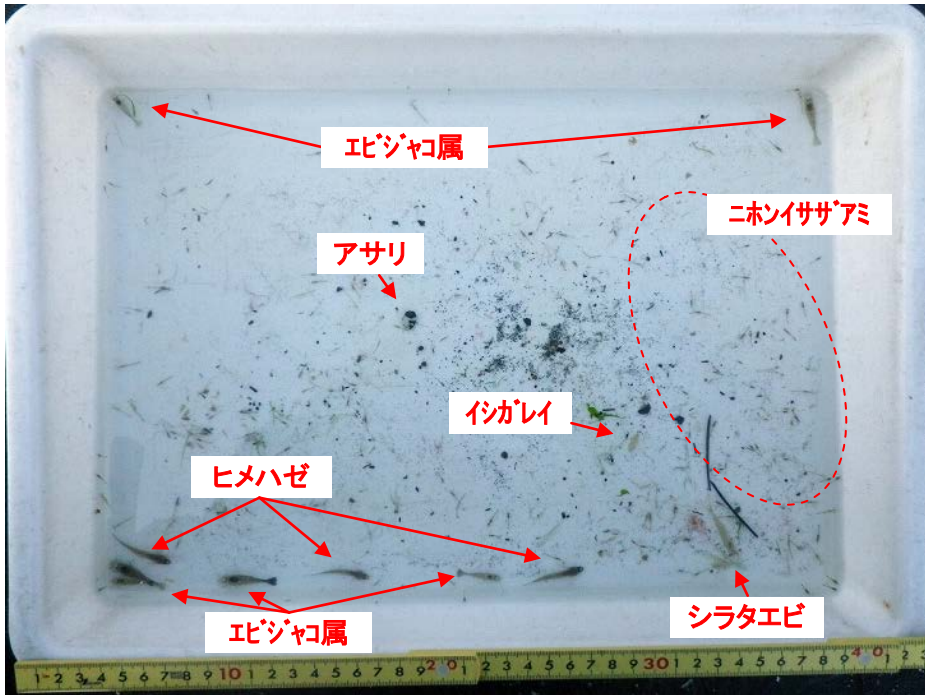
●主な出現種等 (速報のため、種名などは未確定)

| 主な出現種等 | 城南大橋 | お台場海浜公園 | 葛西人工渚 |
|----------------------------|---|--|--|
| 魚種 (多い順 ^{注)}) | アユ(c) | ビリンゴ(+) | アユ(c) |
| | ヒメハゼ(r) | ヒメハゼ(r) | |
| | イシガレイ(r) | チチブ属(r) | |
| 魚類以外 | ニホンイサザアミ(m) エビジャコ属(c) | ニホンイサザアミ(+) エビジャコ属(+) | ニホンイサザアミ(m) クロイサザアミ(m) |
| 備考 | 他にシラタエビ、アサリ等が確認された。 サンプルにはイギス科(紅藻類)が混じていた。 | 他にシラタエビ、ヨコエビ類等が確認された。 サンプルにはアオノリ属(緑藻類)が混じていた。 | 他にシラタエビ等が確認された。 アユは様々な大きさの個体が確認された。 |

注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

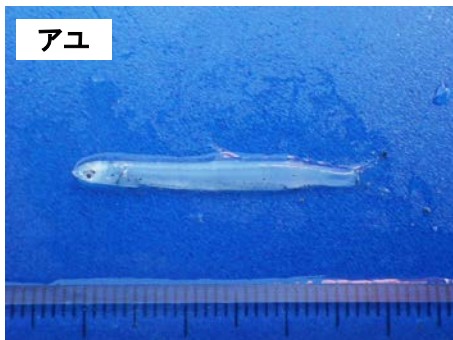
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。
干潟の面積は狭い。
近くには東京港野鳥公園がある。

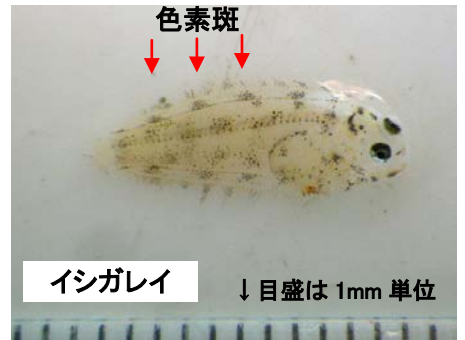
●主な出現種等



川を遡上する前のアユの稚魚。
干潟域には体長3~4cm になるまで
滞在し、その後、河川を遡上する。
体は透明感が強い。
寿命は1年である。



内湾の河口域の干潟域の砂底や砂
泥底に生息する。
体の模様は砂の色にそっくりである。



東京湾を代表する魚のひとつ。
稚魚は、2~4月に干潟などの浅所
に出現し、大きくなるにつれ沖へ移
る。体に鱗はなく、体側に石状の骨
質板があることが名前の由来である。
マコガレイの仔魚と似ているが、
マコガレイは背腹の色素斑が非対
称に並ぶのに対し、イシガレイでは
色素斑が対称に並ぶ。



潮干狩りなどで盛んに獲られている
代表的な二枚貝。
東京湾のものは形が細くて、模様
のコントラストが強いものが多い。

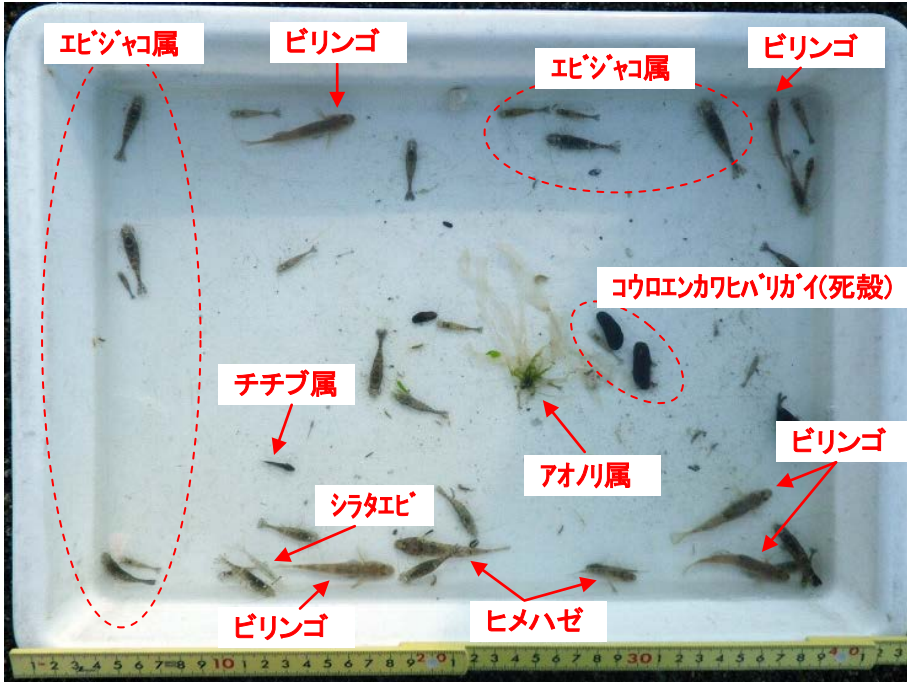


汽水域に生息するアミの仲間 (エビ
の仲間でない) である。
魚類等の餌となり、食物連鎖におい
て植物プランクトン等生産者のエネ
ルギーを上位の消費者に渡す重要
な役割を果たしている。



内湾の砂泥底に生息し、魚類の稚魚
などを捕食することが知られている。
また、鳥類等の餌ともなる。
砂の中に素早く潜り、体の模様も砂
の色にそっくりである。

お台場海浜公園 採取試料



レインボーブリッジの袂にある人工の渚。背後には、東京臨海副都心の高層ビル群がみえる。

●主な出現種等



ビリンゴ

河川下流域から河口域におもに生息し、早春にアナジャコ等の甲殻類の巣穴に産卵する。中層を群れて泳ぎ、動物プランクトン等を食べている。



ヒメハゼ

城南大橋に比べ、大型の個体が確認された。小型甲殻類や二枚貝を食べている。



チチブ属

本調査では、チチブ属の種として、アカオビシマハゼ、シモフリシマハゼ、ヌマチチブ、チチブが確認されている。雑食性で、転石の下やカキ殻の間で生活している。



ポシェットゲオヨコエビ

ヨコエビの仲間、海藻などに付着していることが多い。



イソコツブムシ属

体長5~8mm で体を丸めて球状になることができる。石の下や海藻の中で生活している。



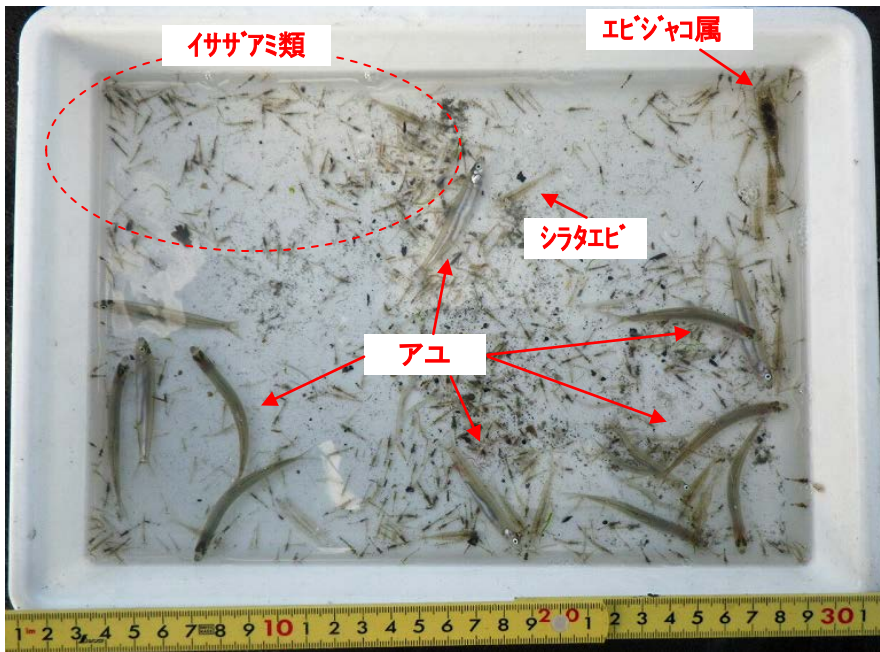
タチウオ

波打ち際付近で、全長 34cm の弱ったタチウオを発見した。タチウオは、東京湾では湾央から外湾に生息し、湾奥ではあまりみられないことから、弱った個体が迷い込んだものと推定される。カタクチイワシ等の小魚を食べている。湾央から外湾にかけて夏の沖釣りの代表種で、刺身、塩焼き等で賞味される。



生きているときは金属光沢を放つ

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。一般の立ち入りは禁止されており、野鳥の楽園となっている。

●主な出現種等



葛西人工渚では、様々な大きさのアユが確認された。大型の個体は、透明感があるものの、成魚に近い外観であり、河川へ遡上するための準備がほぼ整っていると考えられる。春になり河口の水温が上昇すると、河川を遡上しはじめる。



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間でない)である。葛西人工渚では、ニホンイサザアミとクロイサザアミが同程度確認された。クロイサザアミは、ニホンイサザアミに比べ黒っぽい色をしている。どちらの種も内湾や河口等の汽水域の干潟で生活し、底土上の色々な有機物を餌としている。

汽水域に生息し、スジエビ類よりも大型で、体長7cm程になる。触角が青く、額角(がっかく:頭の上面のトゲ)がトサカ状に盛り上がる。